

脳卒中発症時の症状と判断について

<趣旨>

介護職をはじめとする介護保険関係施設従事者が、利用者の脳卒中発症時に一刻も早く症状に気付き、適切な対応をとれるよう、脳卒中発症時の症状と判断方法（FAST）を理解してもらう。

<全体の流れ>

I FASTについて知識を学ぶ（10分）



II 脳卒中の架空例の読みあわせ、または、動画視聴により、発症時に遭遇したときの感覚に近いものを感じてもらう（5分）



III グループワークで、IIに対して個々に感じた思いや、対応の是非を共有する。（10分）



IV 自分達に、今後、どのような事が必要か、なにが出来るかを検討する。（10分）

【内容】

皆さん、脳卒中と聞いて、どのような状態をイメージしますか？脳卒中の卒中という言葉は、突然あたるという意味があり、その昔、脳卒中は突然倒れる病気として知られていました。しかし、現代においては、脳卒中と一口にいても、病形や重症度によって症状の出方に違いがあり、急に意識を失うものから、めまいやふらつきがあるものの、歩けるし、動けるというものまで初期症状の出方は様々であることがわかっています。ですが、いくら初期症状が軽くても、放置すれば後々重篤な症状につながったり、重い障害が残ったりすることもあります。

では、そのようなわかりづらい軽症の初期症状を、どのように脳卒中と判断すれば良いのか、今日はその方法である「FAST」を、皆さんと一緒に学びたいと思います。

【伝達のポイント】

※会の導入部分

- ・脳卒中の初期症状は必ずしも、重篤ではなく、軽症の場合もあること。
- ・軽症であっても、一刻も早い治療が求められること。
- ・脳卒中の発症を判断するポイント「FAST」が本日の学習内容であること。





I FAST について知識を学ぶ

【内容】

1 ページの「脳卒中発症時の症状と判断について」を見てください。

FAST という言葉は英単語で直訳すると、「早い」といった意味ですが、ここでの FAST とは、判断しづらい脳卒中を判断するための 3 つのポイント「Face (顔)」「Arm (腕)」「Speech (言葉)」と、「Time (時間)」の頭文字をまとめたもので、F～S のうち一つでも当てはまる症状があれば、一刻も早い救急要請と、発症時刻の把握が必要という意味です。

2 ページをご覧ください。FAST の見方が記載してあります。

F・・・顔の片方だけが垂れ下がっているように見える。笑顔を作っても片方の口角が挙がらない。左右非対称の笑顔になります。

A・・・両腕を体の前に出して目を閉じる。片方の腕が徐々に下がる、あるいは片方だけ挙がらない。

S・・・会話が上手く成立しない。ろれつが回らない。試す時は、「今日はいい天気ですね」と言ってもらって下さい。

T・・・顔、腕、言葉の症状のうち、一つでも症状が当てはまったら、一刻も早い救急要請をしてください。

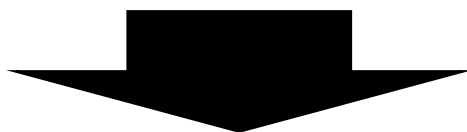
普段と違う症状が出始めた時刻を救急隊に伝えてください。発症後、どのくらい時間が経過したかによって、治療の選択肢が変わってきます。

本日、覚えておいていただきたいのは、まさしくこの FAST です。利用者の万が一の場合に備えて、頭に入れておいてください。

【伝達のポイント】

目的：FAST について知ってもらう

テキスト P1 (項目 1)
P2



【内容】

1 ページの 2 症状の出方は必ずしも同じではありません。

3 ページを併せてご覧ください。脳卒中は図のように大まかに 4 つの病形がありますが、症状の出方は一様ではありません。

大梗塞や大きな出血では、バットで頭を殴られたような頭痛や意識消失など、症状が強くてですが、小梗塞や小さな出血では症状の出方が小さく、発症に気付きにくい場合もあります。

また、症状が軽くても、後に重篤な状態をきたし、障害が残る可能性があるため、一刻も早い治療開始が必要です。

【伝達のポイント】

目的：小さな異変に気付く事の重要性を理解してもらう

テキスト P1（項目 2）
P3

【内容】

1 ページの 3 発症から治療開始までの流れ。

● 脳卒中の急性期治療専門医療機関に運び込まれても、すぐに手術等はできません。まずは、検査や治療方針の決定が行われなければ治療は開始できません。これには、1 時間以上の時間がかかります。いずれにしても、脳卒中の初期治療は、開始が早ければ早いほど有利ですから、脳卒中と判断したら、即座の救急要請が重要です。

つまり、いつもと違う症状や訴えがあったときに、「もしかしたら脳卒中かも」と、気付く事がまず必要です。FAST 自体は時間のかかるものではないので、もしかしたらと思ったら、3 つの項目を見تينることです。4 ページには、日常的に、どのような時に発病を疑うかの例が記載されています。もちろん、これに限ることではないので、日ごろから、意識的に利用者の様子を観察し、いつもと違うところがないかを見ることが重要です。

【伝達のポイント】

目的：迅速な救急要請がなぜ大切なのか、理解してもらう

テキスト P1（項目 3）
P4



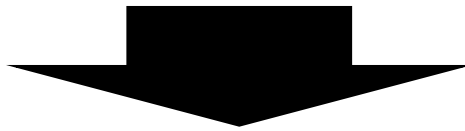
【内容】

- 救急隊に伝えるポイント
5 ページの、救急隊に伝えるポイントの資料を見てください。
救急要請をする時に、救急隊に情報提供して欲しいことが記載されています。
これは、脳卒中の治療をする上で欠かせない情報です。救急隊が到着したら、症状が出た時刻、どのような症状が出たか、服薬内容、持病の有無や、元々持っていた障害がないかについて、情報提供してください。

【伝達のポイント】

目的：搬送後、速やかに治療を開始するために、ポイントを押さえた情報提供が重要であることを理解してもらう

テキスト P5



Ⅱ 脳卒中発症時に遭遇した時に近い感覚を感じてもらう

【内容】

では、日常生活において、このような脳卒中発症の場面はどのようにして訪れるのでしょうか。さっきまで元気だった人が、急に、すぐにわかる重篤な症状を呈した場合は、もちろん救急要請をすると思いますが、すぐには脳卒中と気付かない、様子を見てしまいがちな場面と言うのは、日常生活で数多く考えられます。その一例を考えてみましょう。

【伝達のポイント】

- A 過去に施設内で脳卒中を発症した症例の、発症前後の様子を共有
- B 脳卒中の架空例の読みあわせ
テキスト P6～P7
- C 動画視聴*
※インターネット
→ <http://jsa-web.org/>
A～C いずれかの方法により、発症時に遭遇したときの危機感や現場感覚を感じてもらう



Ⅲ Ⅱに対して個々に感じた思いや、対応の是非を共有する。

- (1) 別添の朗読または、動画を視聴して、
- ・自分達に置き換えて、どのような対応をとるべきか
 - ・一刻も早い救急要請を行うために、職場内でどのような課題があると思うか
 - ・映像全体の感想をグループで話し合ってください。

【グループワークのポイント】
発症時の対応についてグループで話し合い、シミュレーションする。
職場の課題について認識し、共有する。

テキスト P8

～各グループで発表～ (学習会の規模により省略可)

Ⅳ 自分達に、今後、必要なこと・出来ることを検討する。

- (2) (1) で出た内容をもとに、次の内容を検討
- ・課題に対して、どのような対策が必要か(できる、できないは別として)
 - ・今後、職場全体で取り組んでいけそうなこと、スタッフが個々に取り組めることをグループで話し合ってください。

課題に対して何ができるか考えてもらう。

～各グループで発表～ (学習会の規模により省略可)

V 総括

- ・今後、脳卒中発症時の迅速な対応の実践に向けて、職場全体で意識していくこと、また、具体的な取り組みについて検討結果のまとめを述べてください。(FAST、マニュアルの確認【即座に救急要請をする場合、医師・看護職などに連絡をとる場合】など)
- ・後日も協議・検討が必要な場合は、無理にその場でまとめを述べず、FASTの周知、明日から使える知識として活用を呼びかけて終了してください。

(Ⅵ 次年度以降も必要に応じて、学習会の実施の際にご活用ください。)